

結果の考察と来年度に向けての課題

1 アンケート回収率について

保護者 84%（昨年78%）

教職員 100%（昨年100%）

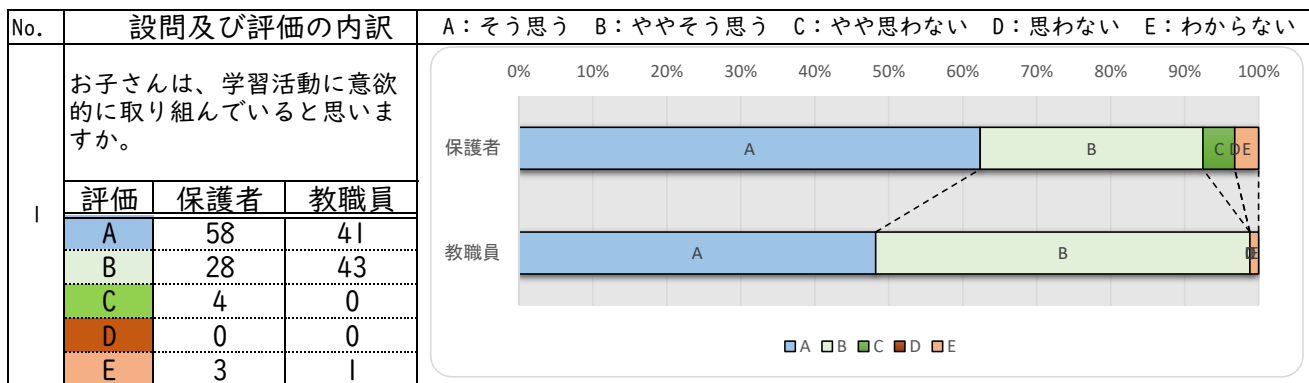
\* アンケート回収の呼びかけの成果もあり、回収率は昨年度よりも向上した。

2 アンケートの実施形態について

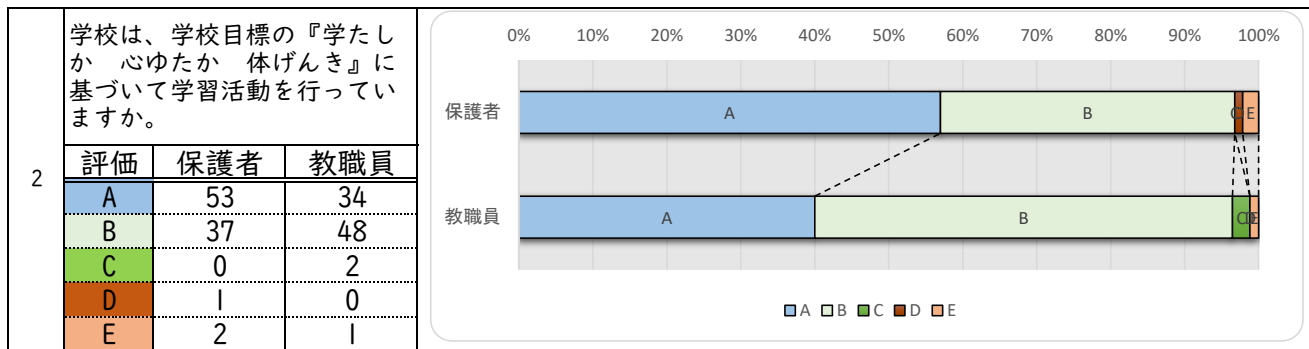
\* 知病併置校としての実態に合わせた質問事項10項目のアンケートを、保護者と教職員に実施

3 アンケート結果の考察と改善策

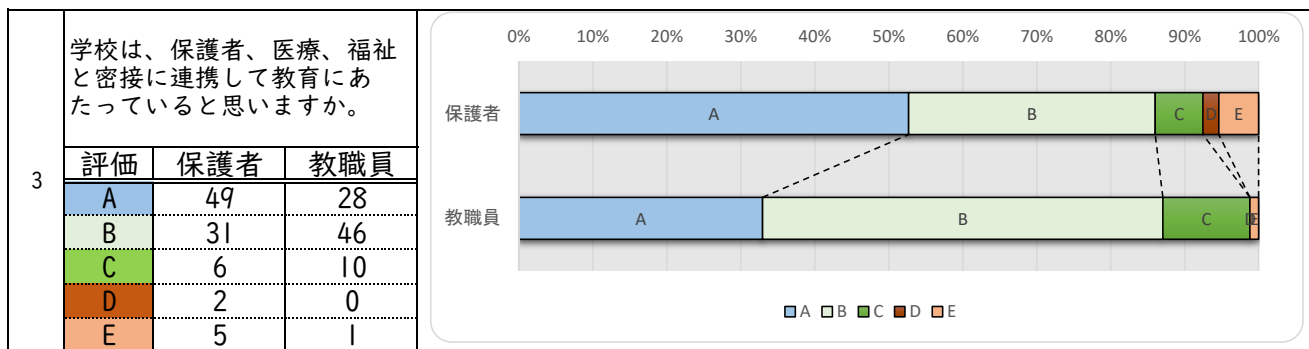
\* 以下、本年度のアンケートの各設問について、項目ごとに考察、並びに改善策を記していく。



多くの方に良い評価をいただいている。意欲的に取り組める場面が増えるように環境面をさらに工夫し、一人ひとりの興味関心を引き出すために、個別の指導計画をもとにした教育活動を進めていきたい。



学校目標は2年目となり浸透しつつも、「思わない、わからない」の意見もある。学校生活の様々な場面で、学校目標に基づいた活動をより具体的に仕組み、児童生徒が活躍していることがわかるように教育課程の工夫や発信をしていきたい。

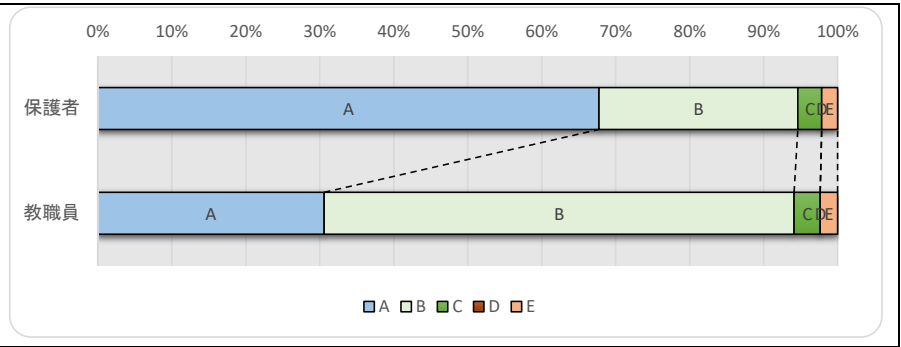


他の質問と比較して、「やや思わない」「思わない」の割合が高い。連携について「スケジュールを提示する」「1学期中に支援会議を実施する」「即答できない質問や問題点についても確実に回答する」など、保護者の要望を大切に考え、より密接な連携になるよう工夫していきたい。

4

学校(学校職員)は、個別の指導計画を活かして日々の授業実践を行っていると思いますか。

評価	保護者	教職員
A	63	26
B	25	54
C	3	3
D	0	0
E	2	2

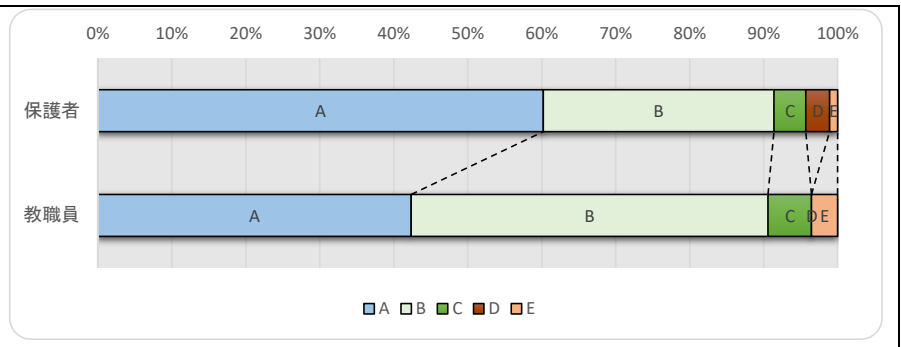


個別の指導計画をもとにした教育活動の推進を計画的に進めている。今後も、その子にとっての適切な支援のために、個々の児童生徒の特性をふまえて、家庭と連携した見直し・修正を大切にされた個別の指導計画の活用に努めていきたい。

5

学校職員は、お子さんについての相談・学校への意見・要望等を的確に受け止め、対応していますか。

評価	保護者	教職員
A	56	36
B	29	41
C	4	5
D	3	0
E	1	3

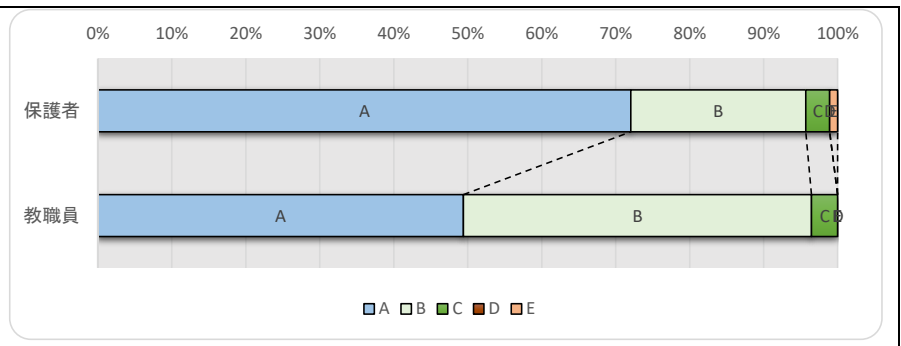


日頃から、保護者の方の意見や要望、不安などに耳を傾け、より細かな対応に心がけながら安心してもらえるようにさらに努めたい。

6

学校職員は、児童・生徒の人権を尊重して指導・支援にあたっていると思いますか。

評価	保護者	教職員
A	67	42
B	22	40
C	3	3
D	0	0
E	1	0

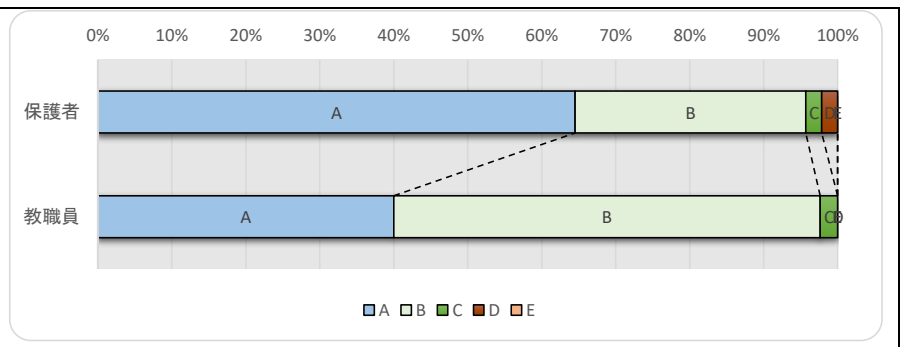


児童生徒に対する理解や指導の方向を全職員が共有しながら指導・支援にあたることに努め、「保護者と職員に、人権感覚に対する意識のずれはないか」「子どもに寄り添った指導・支援になっているか」などを振り返りながら、職員一人ひとりの人権感覚をより一層磨いていきたい。

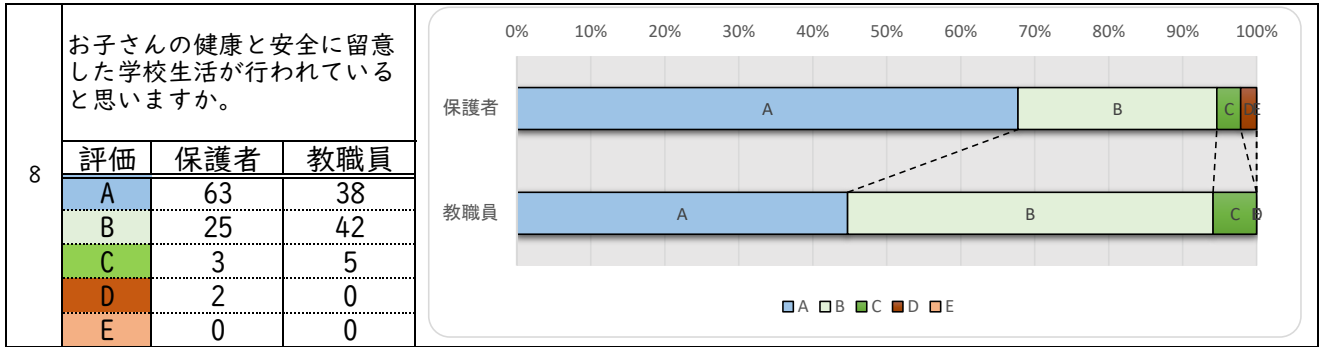
7

日々の授業や行事等は、お子さんの育ちにとって有効なものになっていると思いますか。

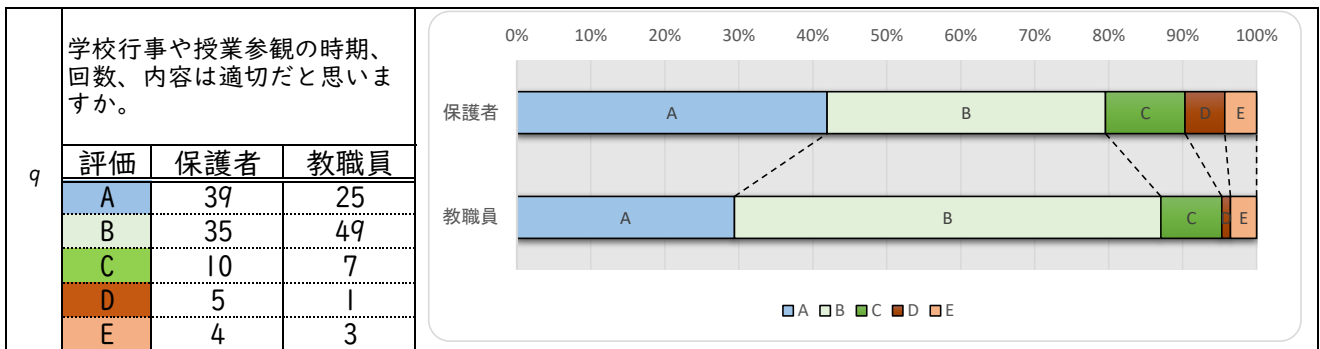
評価	保護者	教職員
A	60	34
B	29	49
C	2	2
D	2	0
E	0	0



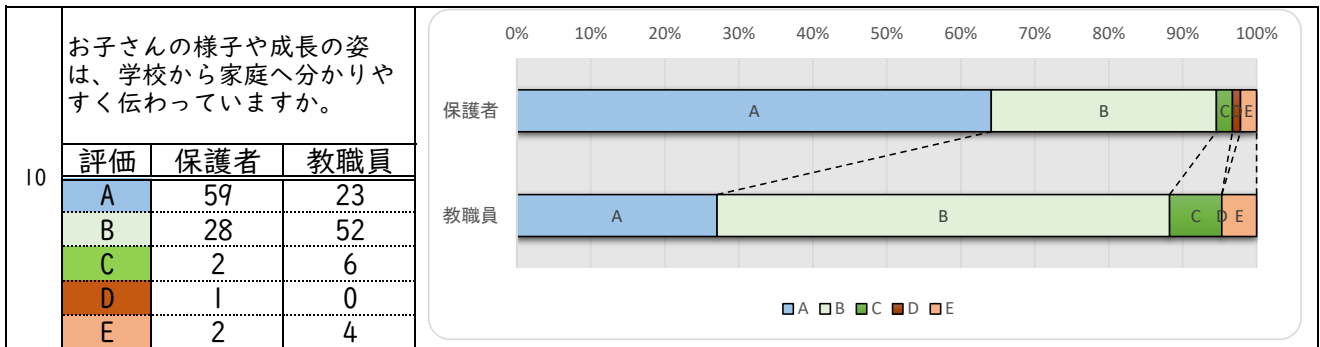
今後も行事の目的や意義を確認しながら、行事の計画をしていきたい。日々の授業については、児童生徒の様子や成果はもちろん、授業全体のねらいについても詳しく発信していきたい。



児童生徒の体の変調には、小さなことでも見逃さない姿勢で全職員が支援にあたりたい。また、児童生徒の動向を常に掌握できる環境・体制をさらに整えていきたい。



昨年度のアンケート結果と比べても不十分とする評価やコメントが多かった。児童生徒の成長に必要な行事のあり方、児童生徒の活動の様子を保護者にじっくり見てもらえる授業参観の回数や日程を検討し、来年度の年間計画にいかしていきたい。



保護者にとって連絡帳が子どもの成長の姿を知る大切な手段になっていることが、寄せられたコメントからわかった。反面、不十分と考えている保護者や職員もいることを念頭に置きながら、児童生徒の姿をより分かりやすく伝えていく方法を探していきたい。

#### 4 学校評価委員会考察（まとめ）

##### (1) 学校評価アンケートからみた本年度の成果

- ① 学校目標「学たしか・心ゆたか・体げんき」に基づき教育活動を行うことで、保護者への理解がさらに深まった。
- ② 学習環境の改善や児童生徒の実態に応じた授業の工夫等により、多くの児童生徒は落ち着いた生活・学習ができています。
- ③ 個別の指導計画に基づく教育支援・授業実践が行われた。

##### (2) 前年度比較からの考察

- ① 学校目標に関する項目2が10%向上した。学校目標2年目となり、浸透してきたと思われる。
- ② 連携に関する項目3の評価が後退した。支援会議の開催の遅れが要因か。
- ③ 個別の指導計画の活用に関して、職員の10%向上に対し、保護者の変化はない。計画・評価以外でも連携を深めたい。
- ④ 学校行事に関して、昨年の反省を生かして行事などの見直しを行ってきたが、さらに調整が必要な結果となった。

##### (3) 今後も継続的に取り組むこと

- ① 楽しい学校づくり → 教育課程や行事のさらなる工夫
- ② 個別の指導計画の活用 → 新しい様式の成果・修正、具体的な活用法の研究、保護者との連携

(4) 課題となった項目・来年度大切に取り組みたいこと

- ① 保護者、医療、福祉との連携について → 早い段階で支援会議等のスケジュールを示し、より密接な連携を目指す
- ② 人権を尊重した指導・支援について → 職員の人権感覚の向上、研修の充実
- ③ 学校行事・参観日について → 回数や内容について各部と調整しながら提案

5 学校評議員会からの意見

- ・ 人権を尊重した指導・支援について、児童生徒にはどのような学びの機会があるのか。
- 例年人権に関わる月間を設けて取り組んでいる。今年度は、6月ささえあい月間（互いの存在を知り仲良くしよう）、11月ささえあい月間（自分も友だちも大切にしよう）、2月心とからだの月間（男女の違いに気づき、互いを思いやろう）を行った。今後も児童生徒の実態に合わせて見直しながら取り組んでいく。
- ・ 学校は、子どもたちにとって楽しい場所。天災や感染防止による行事等の中止はやむを得ないが、多くの子が楽しみにしている行事はこれからも大切に計画してほしい。
- 不測の事態に対するあらゆる対応を考えて計画していきたい。
- ・ 参観日を、各部で実施日をずらして行うなど、小分けにしていくという方向は良いと思う。
- ・ 地域からは苦情ではないが「学校の工事はいつまで続くのか」と言う声もある。ろう学校とは福祉ひろばでの交流があるので、寿台も地域のコミニティーをもっと有効に使っていただければ、内田地区の隣接九町会の理解や協力が得られると思う。
- 紅葉祭や学校開放日などについてお知らせし、地域の方々に知っていただく機会をつくっていきたい。また、地域との交流や共に行える活動についても今後考えていきたい。
- ・ 保護者、医療、福祉との連携について、支援会議をすることだけが連携なのか、早くやれば良いというものでもない、それぞれのケースやニーズに合った連携を模索してほしい。
- 知病併置校としての特色をいかし、個々に応じた連携ができるように、ニーズを見極めて推進していきたい。
- ・ 評価の中にも表れている、職員は良いと評価していても保護者はそうでもない、またその逆もある。このような評価のずれをひとつずつ検証していくことが大切だと思う。
- 保護者と職員の評価のずれについて、それぞれの項目で考察したことを今後の学校運営にいかしていく。